



滋賀県立大学
平成30（2018）年度
講義概要（シラバス）

※この冊子は、Web版シラバスをPDFに変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo (<https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/>) で、ご確認ください。

目 次

1601040	インターンシップC 就職指導担当教員 前期集中	. . .	1
1601050	インターンシップD 就職指導担当教員 前期集中	. . .	3
1601053	インターンシップF 就職指導担当教員 前期集中	. . .	5
1900010	エコ・テクノロジー特論/ 鷓飼 修 後期	. . .	7
1900020	コミュニティ・プロジェクト実習 / 鷓飼 修 通年	. . .	9
1900030	コミュニティ・プロジェクト実習 / 鷓飼 修 通年集中	. . .	11
1900040	コミュニティ・マネジメント特論/ 上田 洋平 後期	. . .	13
1900050	地域再生学特論/ 上田 洋平 前期	. . .	15
1900060	地域再生システム特論 鷓飼 修 前期集中	. . .	17
1900070	地域診断法特論/ 鷓飼 修 前期	. . .	19
1900080	地域デザイン特論A 鷓飼 修 前期前半	. . .	21
1900090	地域デザイン特論B 鷓飼 修 前期前半	. . .	23
1900100	地域マネジメント特論A 鷓飼 修 前期後半	. . .	25
1900110	地域マネジメント特論B 鷓飼 修 前期後半	. . .	27
1900120	成熟社会デザイン特論 上田 洋平 前期	. . .	29
1900130	地域再生学特論 上田 洋平 後期前半	. . .	31
1900140	地域イノベーション特論 上田 洋平 後期後半	. . .	33
1900150	サステナブルデザイン特論 鷓飼 修 後期	. . .	35
1900160	コミュニティ・プロジェクト 鷓飼 修 前期	. . .	37
1900170	コミュニティ・プロジェクト 鷓飼 修 後期	. . .	39
1900180	実践現場体感特別講義 鷓飼 修 前期集中	. . .	41
1900190	実践現場体感特別講義 鷓飼 修 後期集中	. . .	43
1902000	情報通信実習A 専攻教員 前期集中	. . .	45
1902010	情報通信実習B 専攻教員 後期集中	. . .	47
1902020	情報通信実習C 専攻教員 前期集中	. . .	49
1902030	情報通信実習D 専攻教員 後期集中	. . .	51
1902040	数理情報工学特論 杉山 裕介 前期	. . .	53
1902050	数理情報工学特論 杉山 裕介 後期	. . .	55

講義名	インターンシップC							担当教員	就職指導担当教員
講義コード	1601040	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	503CAR501								

授業概要

キャリア教育として実施し、学生が企業や団体において就業体験することを通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を育む。同時に、自己の適性や志向に照らし進路を考える機会とする。この授業は以下の3セクションから構成される。

- 1) 事前学習(学内): 事前学習レポートの提出と事前研修・ を受ける。
- 2) 就業体験(学外): 同一企業・団体等で5日間以上9日間以下の就業体験をする。
- 3) 事後学習(学内): 実習報告レポートの提出と報告会に出席する。

大学と受入企業・団体が、協定書(覚書)を締結して行う「協定型インターンシップ」を基本として自由科目の単位認定をする。

到達目標

- (1) 就業体験を通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を身につける。
- (2) 自分の適性や志向に照らし進路を考え、キャリア意識を高める。
- (3) 専門知識の有用性や学習意識を高める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		なし
レポート課題	50%	1) 事前学習レポート 企業研究 インターンシップ志望動機・目的 2) 実習報告レポート + できればPP報告作成
上記以外	50%	1) 実習日誌 2) 受入企業等担当者の評価書

ガイダンス、事前研修・、就業体験、報告会のすべてに出席することを前提に、上記の4点を総合して評価する。

授業外学習

申込時に、事前学習レポートを作成する。実習希望先の企業・団体について調べ、志望理由・目的を明確にすること。スケジュール管理をすること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

ビジネスマナー講座テキスト

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

インターンシップ実習レポート集(報告会で配付)

前提学力等

履修資格

講義名	インターンシップD							担当教員	就職指導担当教員
講義コード	1601050	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	503CAR502								

授業概要

キャリア教育として実施し、学生が企業や団体において就業体験することを通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を育む。同時に、自己の適性や志向に照らして進路を考える機会とする。この授業は以下の3セクションから構成される。

- 1) 事前学習(学内): 事前学習レポートの提出と事前研修・ を受ける。
- 2) 就業体験(学外): 同一企業・団体等で10日間以上14日間以下の就業体験をする。
- 3) 事後学習(学内): 実習報告レポートの提出と報告会に出席する。

大学と受入企業・団体が、協定書(覚書)を締結して行う「協定型インターンシップ」を基本として自由科目の単位認定をする。

到達目標

- (1) 就業体験を通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を身につける。
- (2) 自分の適性や志向に照らし進路を考え、キャリア意識を高める。
- (3) 専門知識の有用性や学習意識を高める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		なし
レポート課題	50%	1) 事前学習レポート 企業研究 インターンシップ志望動機・目的 2) 実習報告レポート + できればPP報告作成
上記以外	50%	1) 実習日誌 2) 受入企業等担当者の評価書

ガイダンス、事前研修・、就業体験、報告会のすべてに出席することを前提に、上記の4点を総合して評価する。

授業外学習

申込時に、事前学習レポートを作成する。実習希望先の企業・団体について調べ、志望理由・目的を明確にすること。スケジュール管理をすること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

ビジネスマナー講座テキスト

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

インターンシップ実習レポート集(報告会で配付)

前提学力等

履修資格

講義名	インターンシップF							担当教員	就職指導担当教員
講義コード	1601053	単位数	3	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	503CAR503								

授業概要

キャリア教育として実施し、学生が企業や団体において就業体験することを通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を育む。同時に、自己の適性や志向に照らして進路を考える機会とする。この授業は以下の3セクションから構成される。

- 1) 事前学習(学内): 事前学習レポートの提出と事前研修・ を受ける。
 - 2) 就業体験(学外): 同一企業・団体等で15日間以上の就業体験をする。
 - 3) 事後学習(学内): 実習報告レポートの提出と報告会に出席する。
- 大学と受入企業・団体が、協定書(覚書)を締結して行う「協定型インターンシップ」を基本として自由科目の単位認定をする。

到達目標

- (1) 就業体験を通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を身につける。
- (2) 自分の適性や志向に照らし進路を考え、キャリア意識を高める。
- (3) 専門知識の有用性や学習意識を高める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		なし
レポート課題	50%	1) 事前学習レポート 企業研究 インターンシップ志望動機・目的 2) 実習報告レポート + できればPP報告作成
上記以外	50%	1) 実習日誌 2) 受入企業等担当者の評価書

事前研修・、就業体験、報告会のすべてに出席することを前提に、上記の4点を総合して評価する。

授業外学習

申込時に、事前学習レポートを作成する。実習希望先の企業・団体について調べ、志望理由・目的を明確にすること。スケジュール管理をすること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

ビジネスマナー講座テキスト

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

インターンシップ実習レポート集(報告会で配付)

前提学力等

履修資格

講義名	エコ・テクノロジー特論/							担当教員	鶴飼 修
講義コード	1900010	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT605								

授業概要

持続可能な社会や地球環境、その社会・環境において求められる知識や技術、よりよい社会・環境を創造するための知識や技術を学ぶ。授業は本学教員によるオムニバス形式であり、様々なジャンルにおける基礎知識、最新の動向、最先端の技術、手法について学修する。レポート提出は指示無き限りwebシステムを用いる。×切は授業翌日から1週間を厳守のこと。

到達目標

- (1)我が国における地域資源の現状について、具体的な例を挙げて概要を説明することができる。
- (2)地域資源の活用方法について、具体的な例を挙げて概要を説明することができる。
- (3)未来を拓く基礎技術について、具体的な例を挙げて概要を説明することができる。
- (4)再生可能エネルギーの特徴と近年の動向について説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	エコ・テクノロジー特論/							担当教員	鵜飼 修
講義コード	1900010	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT605								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	サステイナブルデザイン総論	
第2回	林業	滋賀県における森林バイオマス活用
第3回	里山	日本の原風景としての『里山』に関する知識を学ぶ。
第4回	農業	国土を保全する『持続可能な農業』に関する知識を学ぶ。
第5回	産業	持続可能な産業』の考え方、あり方について学ぶ。
第6回	環境建築デザイン 1	建築におけるサステイナブルデザイン、環境共生デザイン
第7回	環境建築デザイン 2	建築における木材利用
第8回	生活デザイン 1	地域活性化などにおける地域資源活用の手法について学ぶ。
第9回	生活デザイン 2	地域資源を活用したデザイン手法について学ぶ。
第10回	未来を拓く基礎技術 1	有機・無機材料
第11回	未来を拓く基礎技術 2	機械工学
第12回	未来を拓く基礎技術 3	電気・電子・情報工学
第13回	再生可能エネルギー 1	再生可能エネルギーの特徴、活用手法について学ぶ。
第14回	再生可能エネルギー 2	滋賀県のエネルギー政策と県内での取組事例
第15回	サステイナブルデザインの実践	まとめとディスカッション

担当者から一言

講義名	コミュニティ・プロジェクト実習 /							担当教員	鶴飼 修 / 上田 洋平
講義コード	1900020	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT601								

授業概要

地域での実践を通じて、地域診断や合意形成の手法を習得し、コーディネート力やマネジメント能力を向上させることをねらいとする。担当する教員のゼミに所属し、月に1回をめぐり指導を受ける。受講生は、自身の有する地域課題をテーマに、その解決等のプロジェクトを設定し、担当教員の指導を受けながら実践を試みる。授業は前期、後期とし、それぞれに報告の機会を設ける。成績評価は、目標管理シートを用いて、プロジェクトの到達目標、自分自身のスキルアップの目標を設定し、成果報告時にゼミ担当教員からの評価を受ける。成果報告の発表でのプレゼンテーション能力も評価に加味される。ゼミナールの日時は、原則事務局発行のスケジュール表通りとするが、教員と受講生の日程調整により柔軟に対応する。受講生の実践現場への教員の訪問もゼミ指導を含む。

本科目の単位取得には、新カリキュラムの「コミュニティ・プロジェクト」および「コミュニティ・プロジェクト」を併せた通年の受講が必要である。

到達目標

(1) 地域特性を把握し、プロジェクトを適切に推進することができる。
詳細は各自の目標管理シートによる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	目標管理シートにおける評価

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	コミュニティ・プロジェクト実習 /						担当教員	鶴飼 修 / 上田 洋平	
講義コード	1900020	単位数	2	開講期	通年	授業種別			講義
ナンバリング番号	592CAT601								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	プロジェクトの目標設定	目標管理シートの作成
第2回	プロジェクト進捗報告	
第3回	プロジェクト進捗報告	
第4回	プロジェクト進捗報告	
第5回	プロジェクト進捗報告	
第6回	成果報告会	
第7回	成果報告会	
第8回	成果報告会	
第9回	プロジェクトの目標修正	
第10回	プロジェクト進捗報告	
第11回	プロジェクト進捗報告	
第12回	プロジェクト進捗報告	
第13回	プロジェクト進捗報告	
第14回	成果報告会	
第15回	成果報告会	
第16回	成果報告会	
担当者から一言		

講義名	コミュニティ・プロジェクト実習 /							担当教員	鶴飼 修 / 上田 洋平
講義コード	1900030	単位数	2	開講期	通年集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT602								

授業概要

新しい地域社会を切り拓く、地域イノベーションの先進的な取り組み、萌芽的な取り組みの現場を訪問し、実践者からの講義を受け、現場の体感と併せてそのノウハウを修得する。訪問は半期につき、県外1泊2日、県内1泊2日の2回で8事例程度を学修する。(通期で16事例程度)
 平成29年度の県外訪問先は、葉っぱビジネスで著名な徳島県上勝町(前期)、岡山県西粟倉村の村落エネルギー(後期)などを予定している。
 県外はバスをチャーターして訪問する。県内は教員の車等で引率する。視察料、講師謝金、バスチャーター、教員の車の交通費は公費で負担するが、各自の宿泊費、食費は各自での負担となる。
 スケジュールは添付の通り。
 本科目の単位修得には、新カリキュラムの「実践現場体感特別講義」(前期)および「実践現場体感特別講義」(後期)を併せて履修することが必要となる。

到達目標

- (1)地域イノベーションの現場について、具体的事例の概要を説明できる。
- (2)地域イノベーションの現場について、実践者による実践ノウハウのポイントを説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	各回のレポート×現場数で評価する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	コミュニティ・プロジェクト実習 /						担当教員	鶴飼 修 / 上田 洋平	
講義コード	1900030	単位数	2	開講期	通年集中	授業種別			講義
ナンバリング番号	592CAT602								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	実践現場 1	実践現場での実践者による講義
第2回	実践現場 2	
第3回	実践現場 3	
第4回	実践現場 4	
第5回	実践現場 5	
第6回	実践現場 6	
第7回	実践現場 7	
第8回	実践現場 8	
第9回	実践現場 9	
第10回	実践現場 1 0	
第11回	実践現場 1 1	
第12回	実践現場 1 2	
第13回	実践現場 1 3	
第14回	実践現場 1 4	
第15回	実践現場 1 5	
第16回	実践現場 1 6	
担当者から一言		

講義名	コミュニティ・マネジメント特論/						担当教員	上田 洋平	
講義コード	1900040	単位数	2	開講期	後期	授業種別			講義
ナンバリング番号	592CAT604								

授業概要

国連においても「SDGs（持続可能な開発目標）」が掲げられているように、単に開発・成長を目指すだけの時代は終わり、持続（未来）可能性が問われる時代である。限りある資源を活かしながら、人と自然、人と人がいかに共生し、ともにその可能性を実現しつつ生きていくか。そのための重要なキーワードの一つが「イノベーション」である。

この講義では持続可能な共生社会の構築に必要なイノベーションの手法について、経済、環境、資源と人材等様々な角度から議論する。地域イノベーションという点で言えば、滋賀はそのユニークな事例を有する場所である。そこで、県内各地・各分野で活躍し実績を上げている事業やそれを支える考え方、実践手法等のエッセンスについて当事者が直接紹介するケーススタディの形で学ぶ。

当講義はWEB開講科目である。

到達目標

- (1) 地域イノベーションの概念と意義、持続可能な共生社会実現に向けた潮流と展望について理解し説明できる。
- (2) 地域イノベーションの具体的事例を紹介することができる。
- (3) イノベーションの仕掛けと仕組み、イノベーション創発を促す場と条件、イノベーション人材に必要な心構えや技能について理解し説明できる。
- (4) 地域資源やコミュニティの特性を踏まえたイノベティブで持続可能な共生社会づくりにつながる事業を提案できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標に示す(1)～(4)については、演習問題(レポート)により評価する。
上記以外		

授業外学習

講義VTR（講師1人につき20分間の講義）を視聴するウェブ講義である。受講生はビデオ視聴ごとに演習問題を解いて提出し、その答案等をもとに採点・成績評価する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域再生学特論/							担当教員	上田 洋平
講義コード	1900050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT606								

授業概要

地域固有の自然・歴史・文化に根差した地域再生の思想、仕組み、仕掛け（手法）及びそれを担う人材について、各地で現に展開中のナマの取り組みを取り上げ、事例研究により学ぶとともに、各地の取り組みを主導し支えるキーパーソンとの議論を通じて理解を深める。併せて、地域再生を担うリーダー・コーディネーターとしての「コミュニティ・アーキテクト（近江環人）」の職能と役割について議論し学ぶ。

到達目標

- (1) 地域や部門毎の課題の性質とその背景について理解し説明できる。
- (2) 地域課題を解決し地域を再生・活性化するために必要な考え方、仕組み、仕掛けについて理解し説明できる。
- (3) さまざまな知見を総合・応用して、地域課題の性質に応じた再生策を具体的に提案することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1)(2)については、演習問題(レポート)により評価する(60%)。
レポート課題	40	到達目標(3)については、期末に課す試験によって評価する(40%)。
上記以外		

授業外学習

授業で取り上げる地域やゲスト講師が関わる事業・イベントについて、積極的に訪問したり参加することを薦める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	地域再生システム特論							担当教員	鶴飼 修 / 上田 洋平 / 轟 慎一
講義コード	1900060	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT607								

授業概要

地域本来の力や資源を活かした地域づくり・地域再生を実現するための考え方と手法を実践的に学ぶ。具体的な地域再生の事例を参考に、フィールドワークやワークショップの企画、実施、地域再生策の提案までの過程に主体的に取り組む。こうした実践を通して、フィールドワークやワークショップの技法、ファシリテーションの手法、地域課題の把握から解決策の提案までのノウハウを修得する。

- 1) 夏期3日間の集中講義として行う(フィールドワークはこのうち1日)。
- 2) 学生、院生(社会人学生含む)混成によるチームを編成し、フィールドワークやワークショップに臨む。
- 3) フィールドワーク先や課題は地域の行政等から紹介・提起を受け、ホットでリアルなフィールドや課題に挑む。
- 4) 地域住民や市民団体、地域の行政職員等、地域の方々と共に歩き、考え、具体的な企画・提案を作成する。

到達目標

- (1) 地域課題の把握から解決に向けた計画の作成、解決に向けたアクションとその評価・改善までの一連の流れを理解し説明することができる。
- (2) 地域の関係者とのコミュニケーションを通じて地域の現状・課題を的確に把握することができる。
- (3) 地域資源や地域課題の現状に即した適切なフィールドワークやワークショップを企画し実施することができる。
- (4) 地域の関係者の意見を適切に引き出し整理して適確な地域再生提案を作成することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に示す(1)については中間レポート(30%)により、(2)(3)(4)については最終レポート(50%)及びプレゼンテーション(20%)により評価する。

授業外学習

フィールドワーク先地域関係者及びワークショップ参加者のコーディネート、提案作成等、授業時間外での活動を必要に応じて実施する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	地域診断法特論/							担当教員	鶴飼 修
講義コード	1900070	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT603								

授業概要

本科目は、地域デザイン特論Aおよび、地域マネジメント特論Aの両方を履修することで読み替えることができる。

地域デザイン特論では、地域デザイン、まちづくりの活動実践においては、まずその対象地域の特性を把握することが求められる。本授業では、地域資源を発見・発掘し、地域のビジョン創造につなげる地域デザイン手法における基礎的な手法である「地域診断法」を学ぶ。レポートの提出はwebシステムで行うこと。期限は授業翌日から1週間。期限後は受け付けない。スクーリングは参加必須。やむを得ず欠席する場合は事前に担当教員と相談すること。

地域マネジメント特論では、地域イノベーションを実践するための地域でのマネジメント手法およびコミュニティ・ビジネス等の事業創発手法について学ぶ。レポートの提出はwebシステムで行うこと。期限は授業翌日から1週間。期限後は受け付けない。スクーリングは参加必須。やむを得ず欠席する場合は事前に担当教員と相談すること。

到達目標

地域デザイン特論

地域診断法を用いた地域デザインの方法を説明することができる。
近江の歴史的、産業的、生態的特性を説明することができる。
地域診断法を用いた地域デザインを提案することができる。

地域マネジメント特論

マネジメント、地域環境経営、地域起業、NPOの概要を理解し説明することができる。
コミュニティ・ビジネス、コミュニティ・マネジメントの理論と実践手法を説明することができる。
地域資源やコミュニティの特性をふまえた地域ビジネスプランを提案できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	【web期末試験】地域デザイン特論A,B共通、地域マネジメント特論A,B共通 ・web期末試験はgoogleフォームを利用した理解度を確認する試験。 ・試験開始時間にアドレスをメールで知らせるので、期限内に回答すること。
レポート課題	60	各回のレポートを10点満点で評価する。
上記以外	40	スクーリングにおける態度、提案内容、プレゼンテーションを評価。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域診断法 鳥の目、虫の目、科学の目	近江環人地域再生学座編	新評論	4794808909
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

大学院生は、近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	地域診断法特論/						担当教員	鵜飼 修	
講義コード	1900070	単位数	2	開講期	前期	授業種別			講義
ナンバリング番号	592CAT603								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	地域デザインと地域診断法	1 - 1 「地域デザインと地域診断の意義」 1 - 2 「地域診断の手法」
第2回	エコロジカルプランニングによる地域診断から地域デザインへ	2 - 1 : エコロジカルプランニングの概要 2 - 2 : エコロジカルプランニングの実践手法
第3回	地域診断法の実践手法	3 - 1 : 1×4 簡易マトリックス手法 3 - 2 : 調査形式
第4回	近江の歴史的特性	4 - 1 : 歴史的特性把握の基礎知識 4 - 2 : 近江の歴史的特性
第5回	近江の産業的特性	5 - 1 : 経済と環境 5 - 2 : 滋賀県経済の特徴
第6回	近江の生態的特性	6 - 1 : 生態的特性把握の基礎知識 6 - 2 : 近江の生態的特性
第7回	スクーリング: 地域診断法の実践手法 (ワークショップ含む)	・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。 ・テーマ「地域診断をふまえた地域デザイン」
第8回	スクーリング: 地域診断法の実践手法 (ワークショップ含む)	・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。 ・テーマ「地域診断をふまえた地域デザイン」
第9回	地域マネジメント総論	1 - 1 : マネジメントの基礎知識 1 - 2 : 非営利組織のマネジメントの特徴
第10回	地域環境経営論	2 - 1 : 環境経営の基礎知識 2 - 2 : エコプレミアムの可能性
第11回	地域における起業のすすめ ~ 起業の課題と支援 ~	3 - 1 : 企業活動と富の創造、現況と課題 3 - 2 : 起業の事例と事業化の課題
第12回	NPO活動のマネジメント	4 - 1 : NPOの基礎知識 4 - 2 : NPOの設立と運営方法
第13回	コミュニティ・ビジネス論	5 - 1 : コミュニティ・ビジネスの基礎知識 5 - 2 : コミュニティ・ビジネスの創造手法
第14回	コミュニティ・マネジメント理論と実践	6 - 1 : 人を動かす理論 6 - 2 : 人が動かされる理論
第15回	コミュニティ・ビジネス事業スキームの作成 その1	・スクーリング(地域マネジメント特論A・B合同)。 ・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。
第16回	コミュニティ・ビジネス事業スキームの作成 その2	・スクーリング(地域マネジメント特論A・B合同)。 ・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。
担当者から一言		

講義名	地域デザイン特論 A							担当教員	鶴飼 修
講義コード	1900080	単位数	1	開講期	前期前半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域デザイン、まちづくりの活動実践においては、まずその対象地域の特性を把握することが求められる。本授業では、地域資源を発見・発掘し、地域のビジョン創造につなげる地域デザイン手法における基礎的な手法である「地域診断法」を学ぶ。レポートの提出はwebシステムで行うこと。期限は授業翌日から1週間。期限後は受け付けない。スクーリングは参加必須。やむを得ず欠席する場合は事前に担当教員と相談すること。

到達目標

地域診断法を用いた地域デザインの方法を説明することができる。
近江の歴史的、産業的、生態的特性を説明することができる。
地域診断法を用いた地域デザインを提案することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	【web期末試験】地域デザイン特論A,B共通 ・web期末試験はgoogleフォームを利用した理解度を確認する試験。 ・試験開始時間にアドレスをメールで知らせるので、期限内に回答すること。
レポート課題	60	各回のレポートを10点満点で評価する。
上記以外	40	スクーリングにおける態度、提案内容、プレゼンテーションを評価。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域診断法 鳥の目、虫の目、科学の目	近江環人地域再生学座編	新評論	4794808909
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

大学院生は、近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	地域デザイン特論B							担当教員	鶴飼 修
講義コード	1900090	単位数	1	開講期	前期前半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域デザイン、まちづくりの活動実践においては、まずその対象地域の特性を把握することが求められる。本授業では、地域資源を発見・発掘し、地域のビジョン創造につなげる地域デザイン手法における基礎的な手法である「地域診断法」を学ぶ。レポートの提出はwebシステムで行うこと。期限は授業翌日から1週間。期限後は受け付けない。スクーリングは参加必須。やむを得ず欠席する場合は事前に担当教員と相談すること。

到達目標

地域診断法を用いた地域デザインの方法を説明することができる。
近江の歴史的、産業的、生態的特性を説明することができる。
地域診断法を用いた地域デザインを提案することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	【web期末試験】地域デザイン特論A,B共通 ・web期末試験はgoogleフォームを利用した理解度を確認する試験。 ・試験開始時間にアドレスをメールで知らせるので、期限内に回答すること。
レポート課題	60	各回のレポートを10点満点で評価する。
上記以外	40	スクーリングにおける態度、提案内容、プレゼンテーションを評価。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域診断法 鳥の目、虫の目、科学の目	近江環人地域再生学座編	新評論	4794808909
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

大学院生は、近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	地域マネジメント特論A							担当教員	鶴飼 修
講義コード	1900100	単位数	1	開講期	前期後半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域イノベーションを实践するための地域でのマネジメント手法およびコミュニティ・ビジネス等の事業創発手法について学ぶ。レポートの提出はwebシステムで行うこと。期限は授業翌日から1週間。期限後は受け付けない。スクーリングは参加必須。やむを得ず欠席する場合は事前に担当教員と相談すること。

到達目標

マネジメント、地域環境経営、地域起業、NPOの概要を理解し説明することができる。
 コミュニティ・ビジネス、コミュニティ・マネジメントの理論と実践手法を説明することができる。
 地域資源やコミュニティの特性をふまえた地域ビジネスプランを提案できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	【web期末試験】地域マネジメント特論A,B共通 ・web期末試験はgoogleフォームを利用した理解度を確認する試験。 ・試験開始時間にアドレスをメールで知らせるので、期限内に回答すること。
レポート課題	60	各回のレポートを10点満点で評価。
上記以外	40	スクーリングにおける提案、プレゼンテーションを評価。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

大学院生は近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	地域マネジメント特論B							担当教員	鶴飼 修
講義コード	1900110	単位数	1	開講期	前期後半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域イノベーションを実践するための地域でのマネジメント手法およびコミュニティ・ビジネス等の事業創発手法について学ぶ。レポートの提出はwebシステムで行うこと。期限は授業翌日から1週間。期限後は受け付けない。スクーリングは参加必須。やむを得ず欠席する場合は事前に担当教員と相談すること。

到達目標

マネジメント、地域環境経営、地域起業、NPOの概要を理解し説明することができる。
 コミュニティ・ビジネス、コミュニティ・マネジメントの理論と実践手法を説明することができる。
 地域資源やコミュニティの特性をふまえた地域ビジネスプランを提案できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	【web期末試験】地域マネジメント特論A,B共通 ・web期末試験はgoogleフォームを利用した理解度を確認する試験。 ・試験開始時間にアドレスをメールで知らせるので、期限内に回答すること。
レポート課題	60	各回のレポートを10点満点で評価。
上記以外	40	スクーリングにおける提案、プレゼンテーションを評価。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

大学院生は近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	地域マネジメント特論B							担当教員	鵜飼 修
講義コード	1900110	単位数	1	開講期	前期後半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域マネジメント総論	1 - 1 : マネジメントの基礎知識 1 - 2 : 非営利組織のマネジメントの特徴
第2回	地域環境経営論	2 - 1 : 環境経営の基礎知識 2 - 2 : エコプレミアムの可能性
第3回	地域における起業のすすめ ~ 起業の課題と支援 ~	3 - 1 : 企業活動と富の創造、現況と課題 3 - 2 : 起業の事例と事業化の課題
第4回	NPO活動のマネジメント	4 - 1 : NPOの基礎知識 4 - 2 : NPOの設立と運営方法
第5回	コミュニティ・ビジネス論	5 - 1 : コミュニティ・ビジネスの基礎知識 5 - 2 : コミュニティ・ビジネスの創造手法
第6回	コミュニティ・マネジメント理論と実践	6 - 1 : 人を動かす理論 6 - 2 : 人が動かされる理論
第7回	コミュニティ・ビジネス事業スキームの作成 その1	・スクーリング (地域マネジメント特論 A・B 合同)。 ・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。
第8回	コミュニティ・ビジネス事業スキームの作成 その2	・スクーリング (地域マネジメント特論 A・B 合同)。 ・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。
担当者から一言		

講義名	成熟社会デザイン特論							担当教員	上田 洋平
講義コード	1900120	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

少子・高齢化、人口減少の時代にあつて、これまでの成果を継承しつつ、山積する課題を乗り越えながら、成熟社会における地域・コミュニティのあり方や人びとの生き方をいかに構想し実現していくか、さまざまな観点から議論する。

到達目標

- (1) 成熟社会の本質について理解し説明できる。
(2) 成熟社会における地域・コミュニティのあり方や人びとの生き方を構想し実現するために必要な考え方や知識、方法について理解し説明できる。
(3) さまざまな分野の知見を総合・応用して、成熟社会における地域・コミュニティのあり方や人びとのあり方について、具体的に提案することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標(3)について、期末に課す総括レポートにより評価する
レポート課題	60	到達目標(1)(2)について、授業時に課すレポートの内容により評価する
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	成熟社会デザイン特論							担当教員	上田 洋平
講義コード	1900120	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	多世代共創コミュニティ形成の手法	地域共生センター 上田洋平 助教
第2回	成熟社会実現に向けた挑戦	地域共生センター 上田洋平 助教
第3回	成熟社会・少子高齢化社会におけるエンドオブライフ	学内各学部の新卒から成熟社会を考える
第4回	伝統文化の継承	学内各学部の新卒から成熟社会を考える
第5回	からだに問いかける	学内各学部の新卒から成熟社会を考える
第6回	近江の地域遺産	学内各学部の新卒から成熟社会を考える
第7回	若者の現状と「支援」	学内各学部の新卒から成熟社会を考える
第8回	民俗学から考える成熟社会	学内各学部の新卒から成熟社会を考える
第9回	村落福祉の社会学	学内各学部の新卒から成熟社会を考える
第10回	地域における健康づくり	学内各学部の新卒から成熟社会を考える
第11回	健康の維持増進と栄養	学内各学部の新卒から成熟社会を考える
第12回	琵琶湖と地域社会	学内各学部の新卒から成熟社会を考える
第13回	高齢社会の住環境	学内各学部の新卒から成熟社会を考える
第14回	成熟社会に向けた多文化共生	学内各学部の新卒から成熟社会を考える
第15回	まとめ 成熟社会のデザイン論	地域共生センター 上田洋平 助教 ディスカッションとレポート作成

担当者から一言

講義名	地域再生学特論							担当教員	上田 洋平
講義コード	1900130	単位数	1	開講期	後期前半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域固有の自然・歴史・文化に根差した地域再生の思想、仕組み、仕掛け（手法）及びそれを担う人材について、各地で現に展開中のナマの取り組みを取り上げ、事例研究により学ぶとともに、各地の取り組みを主導し支えるキーパーソンとの議論を通じて理解を深める。併せて、地域再生を担うリーダー・コーディネーターとしての「コミュニティ・アーキテクト（近江環人）」の職能と役割について議論し学ぶ。

到達目標

- (1) 地域や部門毎の課題の性質とその背景について理解し説明できる。
- (2) 地域課題を解決し地域を再生・活性化するために必要な考え方、仕組み、仕掛けについて理解し説明できる。
- (3) さまざまな知見を総合・応用して、地域課題の性質に応じた再生策を具体的に提案することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1)(2)については、演習問題(レポート)により評価する(60%)。
レポート課題	40	到達目標(3)については、期末に課す試験によって評価する(40%)。
上記以外		

授業外学習

授業で取り上げる地域やゲスト講師が関わる事業・イベントについて、積極的に訪問したり参加することを薦める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	地域イノベーション特論							担当教員	上田 洋平
講義コード	1900140	単位数	1	開講期	後期後半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

国連においても「SDGs（持続可能な開発目標）」が掲げられているように、単に開発・成長を目指すだけの時代は終わり、持続（未来）可能性が問われる時代である。限りある資源を活かしながら、人と自然、人と人がいかに共生し、ともにその可能性を実現しつつ生きていくか。そのための重要なキーワードの一つが「イノベーション」である。

この講義では持続可能な共生社会の構築に必要なイノベーションの手法について、経済、環境、資源と人材等様々な角度から議論する。地域イノベーションという点で言えば、滋賀はそのユニークな事例を有する場所である。そこで、県内各地・各分野で活躍し実績を上げている事業やそれを支える考え方、実践手法等のエッセンスについて当事者が直接紹介するケーススタディの形で学ぶ。

当講義はWEB開講科目である。

到達目標

- (1) 地域イノベーションの概念と意義、持続可能な共生社会実現に向けた潮流と展望について理解し説明できる。
- (2) 地域イノベーションの具体的事例を紹介することができる。
- (3) イノベーションの仕掛けと仕組み、イノベーション創発を促す場と条件、イノベーション人材に必要な心構えや技能について理解し説明できる。
- (4) 地域資源やコミュニティの特性を踏まえたイノベティブで持続可能な共生社会づくりにつながる事業を提案できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標に示す(1)～(4)については、演習問題(レポート)により評価する。
上記以外		

授業外学習

講義VTR（講師1人につき20分間の講義）を視聴するウェブ講義である。受講生はビデオ視聴ごとに演習問題を解いて提出し、その答案等をもとに採点・成績評価する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	地域イノベーション特論							担当教員	上田 洋平
講義コード	1900140	単位数	1	開講期	後期後半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	地域イノベーション総論	- 1: 地域イノベーションとは何か - 2: イノベーション創発の場と条件
第2回	地域資源を活かした創エネと市民自治	- 1: 地縁を活かした創エネ事業 講師: 松本長治(みどり豊かな清流の郷杉野) - 2: 環境と福祉のイノベーション 講師: 溝口 弘(一社・コナン市民共同発電所プロジェクト)
第3回	里山・田園イノベーション	- 1: 都市とつながる農のイノベーション 講師: 石津大輔(針江のんきいふぁーむ) - 2: 自然が相棒のブランドイノベーション 講師: 堀 彰男(せせらぎの郷)
第4回	暮らしをつくる地域イノベーション	1: 持続可能な住まいをつくる 講師: 清水陽介(上山田どっば村) 2: イノベーション+デザイン 講師: 中野優(デザイン・クリエイティブセンター神戸KIITO)
第5回	移住・交流、観光が促す地域イノベーション	- 1: 空家を活かした観光によるまちづくり 講師: 吉井茂人(長浜まちづくり株式会社) - 2: アーティスト・職人との連携による地域づくり 講師: 西川唱子(NPO法人結びめ)
第6回	地域まるごとイノベーション	- 1: 多様なステークホルダーを巻き込む手法 - 2: 様々な制度や仕組みの活用の仕方
担当者から一言		

講義名	サステイナブルデザイン特論							担当教員	鶴飼 修
講義コード	1900150	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

持続可能な社会や地球環境、その社会・環境において求められる知識や技術、よりよい社会・環境を創造するための知識や技術を学ぶ。授業は本学教員によるオムニバス形式であり、様々なジャンルにおける基礎知識、最新の動向、最先端の技術、手法について学修する。レポート提出は指示無き限りwebシステムを用いる。×切は授業翌日から1週間を厳守のこと。

到達目標

- (1)我が国における地域資源の現状について、具体的な例を挙げて概要を説明することができる。
- (2)地域資源の活用方法について、具体的な例を挙げて概要を説明することができる。
- (3)未来を拓く基礎技術について、具体的な例を挙げて概要を説明することができる。
- (4)再生可能エネルギーの特徴と近年の動向について説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	サスティナブルデザイン特論							担当教員	鵜飼 修
講義コード	1900150	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	サスティナブルデザイン総論	
第2回	林業	滋賀県における森林バイオマス活用
第3回	里山	日本の原風景としての『里山』に関する知識を学ぶ。
第4回	農業	国土を保全する『持続可能な農業』に関する知識を学ぶ。
第5回	産業	持続可能な産業』の考え方、あり方について学ぶ。
第6回	環境建築デザイン 1	建築におけるサスティナブルデザイン、環境共生デザイン
第7回	環境建築デザイン 2	建築における木材利用
第8回	生活デザイン 1	地域活性化などにおける地域資源活用の手法について学ぶ。
第9回	生活デザイン 2	地域資源を活用したデザイン手法について学ぶ。
第10回	未来を拓く基礎技術 1	有機・無機材料
第11回	未来を拓く基礎技術 2	機械工学
第12回	未来を拓く基礎技術 3	電気・電子・情報工学
第13回	再生可能エネルギー 1	再生可能エネルギーの特徴、活用手法について学ぶ。
第14回	再生可能エネルギー 2	滋賀県のエネルギー政策と県内での取組事例
第15回	サスティナブルデザインの実践	まとめとディスカッション

担当者から一言

--

講義名	コミュニティ・プロジェクト							担当教員	鶴飼 修 / 上田 洋平
講義コード	1900160	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域での実践を通じて、地域診断や合意形成の手法を習得し、コーディネート力やマネジメント能力を向上させることをねらいとする。担当する教員のゼミに所属し、月に1回をめぐり指導を受ける。受講生は、自身の有する地域課題をテーマに、その解決等のプロジェクトを設定し、担当教員の指導を受けながら実践を試みる。授業は前期、後期とし、それぞれに報告の機会を設ける。成績評価は、目標管理シートを用いて、プロジェクトの到達目標、自分自身のスキルアップの目標を設定し、成果報告時にゼミ担当教員からの評価を受ける。成果報告の発表でのプレゼンテーション能力も評価に加味される。ゼミナールの日時は、原則事務局発行のスケジュール表通りとするが、教員と受講生の日程調整により柔軟に対応する。受講生の実践現場への教員の訪問もゼミ指導に含む。

到達目標

(1) 地域特性を把握し、プロジェクトを適切に推進することができる。
詳細は各自の目標管理シートによる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	目標管理シートにおける評価

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

--

講義名	コミュニティ・プロジェクト							担当教員	鶴飼 修 / 上田 洋平
講義コード	1900170	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域での実践を通じて、地域診断や合意形成の手法を習得し、コーディネート力やマネジメント能力を向上させることをねらいとする。担当する教員のゼミに所属し、月に1回をめぐり指導を受ける。受講生は、自身の有する地域課題をテーマに、その解決等のプロジェクトを設定し、担当教員の指導を受けながら実践を試みる。授業は前期、後期とし、それぞれに報告の機会を設ける。成績評価は、目標管理シートを用いて、プロジェクトの到達目標、自分自身のスキルアップの目標を設定し、成果報告時にゼミ担当教員からの評価を受ける。成果報告の発表でのプレゼンテーション能力も評価に加味される。ゼミナールの日時は、原則事務局発行のスケジュール表通りとするが、教員と受講生の日程調整により柔軟に対応する。受講生の実践現場への教員の訪問もゼミ指導に含む。

到達目標

(1) 地域特性を把握し、プロジェクトを適切に推進することができる。
詳細は各自の目標管理シートによる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	目標管理シートにおける評価

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	実践現場体感特別講義							担当教員	鶴飼 修 / 上田 洋平
講義コード	1900180	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

新しい地域社会を切り拓く、地域イノベーションの先進的な取り組み、萌芽的な取り組みの現場を訪問し、実践者からの講義を受け、現場の体感と併せてそのノウハウを修得する。
 県外1泊二日、県内1泊二日の実践現場訪問を通じて、8事例+2ワークショップで学修する。
 平成30年度の県外訪問先は、葉っぱビジネスで著名な徳島県上勝町（前期）、岡山県西粟倉村の村落エネルギー（後期）などを予定している。
 県外はバスをチャーターして訪問する。県内は教員の車等で引率する。視察料、講師謝金、バスチャーター、教員の車の交通費は公費で負担するが、宿泊費、食費等は各自での負担となる。
 スケジュールは添付の通り。

到達目標

- (1) 地域イノベーションの現場について、具体的事例の概要を説明できる。
- (2) 地域イノベーションの現場について、実践者による実践ノウハウのポイントを説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	各レポート10点満点（7月末）、ワークショップのグループ成果10点満点で採点する。
上記以外		

現場での各講義を聴き、その取り組みを紹介するレポート（400字程度）を提出する。提出はwebで行うこと。ワークショップのレポートについては成果について報告すること。
 学びを深めるためのワークショップを現地に開催する。ファシリテーターの指導によりワークショップのノウハウも学ぶ。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	実践現場体感特別講義							担当教員	鵜飼 修 / 上田 洋平
講義コード	1900180	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画								
回数	タイトル				概要			

第1回	講義1：ゼロ・ウェイスト取組	講師：(株)いりどりスタッフ 日比ヶ谷ゴミステーション						
第2回	講義2-1：特別講義	講師：株式会社いりどり 代表取締役 横石知二						
第3回	ふりかえりワークショップ							
第4回	講義2-2：彩事業	講師：(株)いりどりスタッフ / 彩農家 彩農家宅						
第5回	講義4：インターンシップ事業	講師：(株)いりどりスタッフ						
第6回	講義5：ふれあいの里さかもとの取り組み	講師：穩台千鶴子						
第7回	【予定】講義1：上板並集落におけるコミュニティ・ビジネスの実践	講師：木の駅いぶき実行委員会代表 / みんなの家EH 代表伊賀並正信						
第8回	【予定】東草野地域における持続可能な地域づくり	講師：暮らシフト研究所 所長 藤田知丈						
第9回	【予定】講義3：「(株)みんなの奥永源寺」の取り組み	講師：代表取締役 前川真司						
第10回	【予定】講義4：まちづくり会社「一般社団法人まちづくり石寺」	講師：理事長 西川時男						
第11回	ふりかえりワークショップ							

担当者から一言								
---------	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--

講義名	実践現場体感特別講義							担当教員	鶴飼 修 / 上田 洋平
講義コード	1900190	単位数	1	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

新しい地域社会を切り拓く、地域イノベーションの先進的な取り組み、萌芽的な取り組みの現場を訪問し、実践者からの講義を受け、現場の体感と併せてそのノウハウを修得する。
 県外1泊二日、県内1泊二日の実践現場訪問を通じて、8事例+2ワークショップで学修する。
 平成30年度の県外訪問先は、葉っぱビジネスで著名な徳島県上勝町（前期）、岡山県西粟倉村の村落エネルギー（後期）などを予定している。
 県外はバスをチャーターして訪問する。県内は教員の車等で引率する。視察料、講師謝金、バスチャーター、教員の車の交通費は公費で負担するが、宿泊費、食費等は各自での負担となる。
 スケジュールは添付の通り。

到達目標

- (1) 地域イノベーションの現場について、具体的事例の概要を説明できる。
- (2) 地域イノベーションの現場について、実践者による実践ノウハウのポイントを説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	各レポート10点満点（≠切1月末）、ワークショップのグループ成果10点満点で採点する。
上記以外		

現場での各講義を聴き、その取り組みを紹介するレポート（400字程度）を提出する。提出はwebで行うこと。ワークショップのレポートについては成果について報告すること。
 学びを深めるためのワークショップを現地に於て開催する。ファシリテーターの指導によりワークショップのノウハウも学ぶ。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	情報通信実習 A							担当教員	専攻教員 / 酒井 道 / 杉山 裕介
講義コード	1902000	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業概要

情報通信に関連する特定の实習課題を取り上げ、必要となる基礎的・応用的知識を教授するとともに、実習を行うことによって理解を深めて応用能力をつける。さらに、実習結果を処理・解釈し、実習課題に関する問題点を見だし、それを解決する能力を養う。

次の流れに沿って、第1～15回で実施する。

- ・各自の実習課題の担当教員と相談して研究テーマを決定する。
- ・実習計画を教員と相談して立案し、その計画に従って、実験的検討、理論解析、数値解析などを行う。
- ・最終的に、レポートや発表スライドの形式で、成果をまとめる。

到達目標

情報通信に関連する特定の内容について、実践力を身に付ける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	実習活動への取り組み、および成果のまとめ等について、総合評価する。

成績評価は合否のみとし、評点はつけない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	情報通信実習 A							担当教員	専攻教員 / 酒井 道 / 杉山 裕介
講義コード	1902000	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	実習 (1)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第2回	実習 (2)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第3回	実習 (3)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第4回	実習 (4)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第5回	実習 (5)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第6回	実習 (6)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第7回	実習 (7)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第8回	実習 (8)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第9回	実習 (9)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第10回	実習 (1 0)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第11回	実習 (1 1)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第12回	実習 (1 2)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第13回	実習 (1 3)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第14回	実習 (1 4)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第15回	実習 (1 5)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
担当者から一言		

講義名	情報通信実習 B							担当教員	専攻教員 / 酒井 道 / 杉山 裕介
講義コード	1902010	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業概要

情報通信に関連する特定の实習課題を取り上げ、必要となる基礎的・応用的知識を教授するとともに、実習を行うことによって理解を深めて応用能力をつける。さらに、実習結果を処理・解釈し、実習課題に関する問題点を見だし、それを解決する高度な能力を養う。

次の流れに沿って、第1～15回で実施する。

- ・各自の実習課題の担当教員と相談して研究テーマを決定する。
- ・実習計画を教員と相談して立案し、その計画に従って、実験的検討、理論解析、数値解析などを行う。
- ・最終的に、レポートや発表スライドの形式で、成果をまとめる。

到達目標

情報通信に関連する特定の内容について、高度な実践力を身に付ける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	実習活動への取り組み、および成果のまとめ等について、総合評価する。

成績評価は合否のみとし、評点はつけない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

以下の科目を履修していることが望ましい。
情報通信実習A、あるいは数理情報工学特論

履修資格

講義名	情報通信実習 B							担当教員	専攻教員 / 酒井 道 / 杉山 裕介
講義コード	1902010	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	実習 (1)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第2回	実習 (2)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第3回	実習 (3)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第4回	実習 (4)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第5回	実習 (5)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第6回	実習 (6)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第7回	実習 (7)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第8回	実習 (8)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第9回	実習 (9)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第10回	実習 (1 0)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第11回	実習 (1 1)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第12回	実習 (1 2)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第13回	実習 (1 3)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第14回	実習 (1 4)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
第15回	実習 (1 5)	授業概要に記した内容に沿って, 実習を行う。
担当者から一言		

講義名	情報通信実習 C							担当教員	専攻教員 / 酒井 道 / 杉山 裕介
講義コード	1902020	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業概要

情報通信に関連する特定の实習課題を取り上げ、必要となる基礎的・応用的知識を教授するとともに、実習を行うことによって理解を深めて、極めて高度な応用能力をつける。さらに、実習結果を処理・解釈し、実習課題に関する問題点を見だし、それを解決する極めて高度な能力を養う。

次の流れに沿って、第 1 ~ 15 回で実施する。

- ・各自の実習課題の担当教員と相談して研究テーマを決定する。
- ・実習計画を教員と相談して立案し、その計画に従って、実験的検討、理論解析、数値解析などを行う。
- ・最終的に、レポートや発表スライドの形式で、成果をまとめる。

到達目標

情報通信に関連する特定の内容について、極めて高度な実践力を身に付ける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	実習活動への取り組み、および成果のまとめ等について、総合評価する。

成績評価は合否のみとし、評点はつけない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

以下の科目を履修していることが望ましい。
情報通信実習B、あるいは数理情報工学特論

履修資格

講義名	情報通信実習 D							担当教員	専攻教員 / 酒井 道 / 杉山 裕介
講義コード	1902030	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業概要

情報通信に関連する特定の实習課題を取り上げ、必要となる基礎的・応用的知識を教授するとともに、実習を行うことによって理解を深めて、分野最先端のレベルで高度な応用能力をつける。さらに、実習結果を処理・解釈し、実習課題に関する問題点を見だし、それを解決する分野最先端のレベルで高度な能力を養う。

次の流れに沿って、第 1 ~ 15 回で実施する。

- ・各自の実習課題の担当教員と相談して研究テーマを決定する。
- ・実習計画を教員と相談して立案し、その計画に従って、実験的検討、理論解析、数値解析などを行う。
- ・最終的に、レポートや発表スライドの形式で、成果をまとめる。

到達目標

情報通信に関連する特定の内容について、分野最先端のレベルで高度な実践力を身に付ける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	実習活動への取り組み、および成果のまとめ等について、総合評価する。

成績評価は合否のみとし、評点はつけない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

以下の科目を履修していることが望ましい。
情報通信実習C

履修資格

講義名	情報通信実習D							担当教員	専攻教員 / 酒井 道 / 杉山 裕介
講義コード	1902030	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	実習(1)	授業概要に記した内容に沿って、実習を行う。
第2回	実習(2)	授業概要に記した内容に沿って、実習を行う。
第3回	実習(3)	授業概要に記した内容に沿って、実習を行う。
第4回	実習(4)	授業概要に記した内容に沿って、実習を行う。
第5回	実習(5)	授業概要に記した内容に沿って、実習を行う。
第6回	実習(6)	授業概要に記した内容に沿って、実習を行う。
第7回	実習(7)	授業概要に記した内容に沿って、実習を行う。
第8回	実習(8)	授業概要に記した内容に沿って、実習を行う。
第9回	実習(9)	授業概要に記した内容に沿って、実習を行う。
第10回	実習(10)	授業概要に記した内容に沿って、実習を行う。
第11回	実習(11)	授業概要に記した内容に沿って、実習を行う。
第12回	実習(12)	授業概要に記した内容に沿って、実習を行う。
第13回	実習(13)	授業概要に記した内容に沿って、実習を行う。
第14回	実習(14)	授業概要に記した内容に沿って、実習を行う。
第15回	実習(15)	授業概要に記した内容に沿って、実習を行う。
担当者から一言		

講義名	数理情報工学特論							担当教員	杉山 裕介 / 門脇 光輝 / 酒井 道
講義コード	1902040	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

情報系技術に関して、数学的基礎に立脚している部分を、その背景にある数学の理解から応用までを講義する。大学の学部レベルの数学について、それぞれの数学の内容と情報系技術の関連を学習し、コンピュータのソフトウェアでデータの数理的な解析を行うための基礎知識を理解する。また、ユーザの立場で知識として必要な無線通信技術を理解する。

キーワード： 微積分、線形代数、確率統計、無線通信工学

到達目標

情報系の分野で必要となる数理的事項について、基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。より具体的には、以下の通りである。(1) 微積分の数値計算処理について理解する。(2) 統計データ解析の基礎・発展について理解する。(3) 無線通信技術の実際について理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す内容について、レポート演習を数回行い、提出する。
上記以外		

100点満点で採点し60点以上を合格とする。

授業外学習

数回、レポート演習の時間を取ることを求める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	応用解析の基礎	大野博道、加藤幹雄、河邊淳、鈴木章斗	培風館	
2				
3				

前提学力等

学部における数学(微積分、線形代数、確率統計)を理解していることが望ましい。

履修資格

講義名	数理情報工学特論							担当教員	杉山 裕介 / 酒井 道
講義コード	1902050	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

情報系技術に関して、数学的基礎に立脚している部分を、その背景にある数学の種々の応用とその関連事項を講義する。大学の学部レベルの数学について、それぞれの数学の内容と情報系技術の関連を学習し、コンピュータのソフトウェアでデータの数理的な解析を行うための応用知識を理解する。

キーワード： 微積分、線形代数、確率統計、無線通信工学

到達目標

情報系の分野で必要となる数理的事項について、応用的事項を理解し、正しい運用ができること。より具体的には、以下の通りである。(1)現象数理学について理解する。(2)機械学習の数理的背景について理解する。(3)デジタルデータ解析について理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す内容について、レポート演習を数回行い、提出する。
上記以外		

100点満点で採点し60点以上を合格とする。

授業外学習

数回、レポート演習の時間を取ることを求める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	応用解析の基礎	大野博道、加藤幹雄、河邊淳、鈴木章斗	培風館	
2				
3				

前提学力等

学部における数学(微積分、線形代数、確率統計)を理解していることが望ましい。

履修資格

講義名	数理情報工学特論							担当教員	杉山 裕介 / 酒井 道
講義コード	1902050	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	入門	講義全体に関する基本概念を説明する。
第2回	現象数理学(1)	現象の数値表現とその解法について、基礎事項を説明する。
第3回	現象数理学(2)	現象の数値表現とその解法について、基礎・発展事項を説明する。
第4回	現象数理学(3)	現象の数値表現とその解法について、応用事項を説明する。
第5回	現象数理学(4)	現象の数値表現とその解法について、様々な例を説明する。
第6回	機械学習の数理的背景(1)	機械学習において使用される数学的基礎を説明する。
第7回	機械学習の数理的背景(2)	線形判別分析の数理的原理について説明する。
第8回	機械学習の数理的背景(3)	サポートベクターマシンの数理的原理について説明する。
第9回	機械学習の数理的背景(4)	ニューラルネットワークの数理的原理の基礎について説明する。
第10回	機械学習の数理的背景(5)	ニューラルネットワークの数理的原理の発展について説明する。
第11回	機械学習の数理的背景(6)	ニューラルネットワークの数理的原理の応用について説明する。
第12回	デジタルデータ解析(1)	デジタルデータ解析の基礎を構成する標本化定理について説明する。
第13回	デジタルデータ解析(2)	デジタルデータ解析の基礎を構成する量子化について説明する。
第14回	デジタルデータ解析(3)	デジタルデータ解析について、種々の実際例について説明する。
第15回	まとめ	講義全体のまとめ・復習・個別試問等を行う。
担当者から一言		